

MP2023の経緯と 選定後の流れ

野上大作

マスタープランとは

- 日本学術会議科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会分科会*が「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」としてまとめる提言。

(*MP2020の時。MP2023は学術研究振興分科会?)

- 学術の大型施設計画・大規模研究計画をリストアップしたもの
- 3年ごとに更新
- 「提案者」となれるのは、研究・教育機関長または部局長等、学術会議会員・連携会員、学協会長等に限られる
- 似たものに文部科学省の「ロードマップ」があるが、(次ページ)

3. 文部科学省における「ロードマップ」の策定 「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想」

(科学技術・学術審議会HP参照)

3-① ロードマップの基本方針

◆ マスタープランとロードマップ: それぞれの位置づけ

「学術の大型研究計画マスタープラン」(科学面から選定)

我が国の科学者コミュニティを代表する機関である日本学術会議が、公募を基礎とし全分野を網羅した科学的評価に基づいて、我が国全体として推進すべき優れた大型計画をリストアップし公表するもの。

「学術研究の大型プロジェクトロードマップ」(実施に向け選定)

学術の大型計画の主な実施主体である文部科学省が、科学技術・学術審議会において、学術会議のマスタープランを基礎とし実施に重点を置いた評価を加えて、学術的価値及び緊急性が高く実施に移すことが適切な大型計画候補をリストアップし公表するもの。

(まとめ): 学術の大型計画
提案から実施への流れ

各学術分野コミュニティ

大学・共同利用機関等

日本学術会議

予算化・実施

文部科学省
(研究振興局研究機関課)

選考

学術会議マスタープラン
(提案計画リスト約200件)

重点大型計画
(20-30 計画)

文科省ロードマップ
(10 計画程度 + 優先度)

選考

大型計画作業部会
(科学技術・学術審議会 所属)

計画により他の省庁でも実施に移すルートを開拓

日本学術会議物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会から

- 2月10日、天文学・宇宙物理学分科会、IAU分科会のオブザーバー出席でMP2023作成の方針と大まかなスケジュールを伺った。
- 2月中旬、光赤天連運営委員会でMP2023への対応についての検討を始めた。
- 3月2日、天文学・宇宙物理学分科会によるMP2023向けオンライン説明会。LOI募集開始。



天文学・宇宙物理学分科会

オンライン説明会用

天文学・宇宙物理学分野の 大型・中型将来計画の検討に向けて

天文学・宇宙物理学分科会

2021年3月2日

©林正彦(2021)

第 24 期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関する マスタープラン策定の方針 (2018年)

4 大型研究計画及び重点大型研究計画の審査における評価の観点

評価の観点

- 1) 計画の学術的意義（国際性や国際連携についても観点に含める）
- 2) 科学者コミュニティの合意（コミュニティの拡がり及び合意のレベルについても観点に含める）
- 3) 計画の実施主体の明確性（合意のレベルについても観点に含める）
- 4) 計画の妥当性（装置等の開発・製作・設置だけでなく、運用計画とその後の計画（雇用、人材育成等を含む）それぞれに必要な期間や予算措置についても観点に含める）
- 5) 共同利用体制の充実度
- 6) 社会的価値（国民の理解、知的価値、経済的・産業的価値、持続可能な開発目標（SDGs）への貢献等）
- 7) 大型研究計画としての適否
- 8) 成熟度（上記 1) から 6) の観点に加え、予算化のための計画の準備状況という観点に係る成熟度も含める）
- 9) 我が国としての戦略性、緊急性等利用体制の充実度

将来計画の分類：大型・中型A・中型B

MP2023に向けた「大型」計画のリストアップと同時に、「中型」計画もリストアップし、天文学・宇宙物理学分野における日本の将来計画を冊子としてまとめることを目指す。そのため、将来計画を便宜的に以下の3種類に分類する

大型：マスタープランに重点大型計画として掲載されることを目指す計画

共同利用 [※1] を前提とする計画で、コミュニティが高い順位で推薦するもの。実現に必要な経費の総額が概ね100億円以上で、大学等の一機関では実現不可能なもの。国際協力を前提とし、日本分担分として概ね50億円以上を想定。開始までのタイムスケールは概ね10年以上、あるいは、すでに開始している国際計画への参画もありえる

中型A：マスタープランへの掲載を目指す、重点大型計画ではなくても良い計画

共同利用 [※1] を前提とする計画で、コミュニティが推薦する計画。概ね100億円以下のもので、大学等の一機関で実現できる計画も含む

※1 共同利用とは、研究施設（またはそこで得られたデータ）の利用に際して、日本の研究機関やコミュニティに属する者なら誰でも平等にアクセスの機会が与えられるようなシステムをいう

将来計画の分類：大型・中型A・中型B

中型B：学術会議による推奨を希望する計画

申請者がマスタープランへの掲載を強く求めているわけではないが、**学術会議（天文学・宇宙物理学分野）による推奨（冊子 [※2] への掲載）を希望する計画**。共同利用を前提とせず、大学等の研究グループ単位の計画。大型科研費レベル（概ね10億円）を超えるが、独自に概算要求等によって経費の獲得を目指す計画

※2 冊子とは、提出された計画書をまとめたものに、分科会やコミュニティによる評価などを付けたPDFファイルのこと。2030年代の日本の天文学・宇宙物理学分野のロードマップとしたい。もし英語版も作るならば、日英両語で計画書を出してもらう必要がある

- **意志表明**の段階で、申請者には「大型・中型A・中型B」の区分を記入してもらうことを想定
- ヒアリング計画を絞り込む時点（2021年10月）で、分科会の判断で申請された区分を変更することも可能

前回の**意志表明記入様式**は http://www2.nao.ac.jp/~misatofukagawa/scj_astphys/loi.html で見ることができます。今回は別の様式を使用しますので、この様式は使用しないでください。

日本学術会議物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会から

LOIが提出されたプロジェクトのうち、

- 重点大型（3件以内、順位を付けて）
- 「大型」「中型A」からマスタープランに掲載するもの

を**9月中**に推薦するよう、光赤天連、高宇連、宇電懇、太陽研連、CRC、理論懇に依頼をされた。

#各コミュニティと関係の薄いプロジェクトや
#中型Bもできれば評価してほしい、とも依頼
#された。

(参考) マスタープラン2020での推薦

- 総合評価 S (3件) :
 - 30m光学赤外線望遠鏡計画TMT
 - 次世代赤外線天文衛星SPICA
 - 超広視野大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の機能強化(すばる2)による国際共同利用研究の推進
- 総合評価 A (4件) :
 - 東京大学アタカマ天文台
 - 小型JASMINE(赤外線位置天文観測衛星)計画
 - 近赤外広視野サーベイ宇宙望遠鏡WFIRSTへの日本の参加
 - ガンマ線バーストを用いた初期宇宙・極限時空探査計画HiZ-GUNDAM
- 赤字は重点大型計画として採択

今後の予定！

- これまでの評価プロセス(次に大内さんから説明)をもとに、光赤天連シンポで今から議論。
- 9月10日(金)、推薦sub-WGで議論し、推薦順位と推薦文確定へ。
- 9月15日(水)の光赤天連総会で推薦順位と推薦文を決定。
- 速やかに学術会議天文・宇宙分科会へ報告。

今後の予定 2

- 2022年1月頃までで、分科会で、各コミュニティから上がってきた推薦をもとに、ヒアリング・フィードバックも行なって、重点大型に推薦する計画を順位付きで決定。また、マスタープランへの掲載の是非の確認と提案者の確認。
- 2022年3月頃、申請者(提案者)が学術会議に提案。
- 2023年1月頃、物理学分野評価小分科会→科学者委員会の分科会でのヒアリングや審査を経て、MP2023リリース。
- 2023年夏に、天文学・宇宙物理学分科会発行の将来計画をまとめた(大型・中型A・中型B全て含む)冊子のリリース。

将来計画検討専門委員会の設置

- 光赤天連には2030年代将来計画検討ワーキンググループ(2030WG)がりましたが、今回のMP2023への推薦の議論の中で、2030WGではスコープが合わないので、将来計画を常に議論する委員会を常設すべきであるということになりました。
 - 役割としては、**継続的な議論を通じた光赤外線コミュニティの将来計画像の構築**です。
 - 9月9日(木)18時が将来計画検討専門委員会と運営委員会の推薦投票の締切です。是非とも真剣にご検討いただき、ご投票をお願いします。詳細は [gopira:01402] [gopira:01403] をご覧ください。
- #事務局の役割も重要です。積極的に引き受けて
#いただきますと大変ありがたいです。